

ミニトマトの斑点病・葉かび病・すすかび病 の特徴と防除法

概要 Abstract

ミニトマト栽培で問題となる、斑点病・葉かび病・すすかび病の3病害それぞれについて、特徴と防除法を示しました。

成果 Results

斑点病

病原菌：かび（ステンフィリウム属菌）
発病部位：葉・葉柄・茎・ヘタ

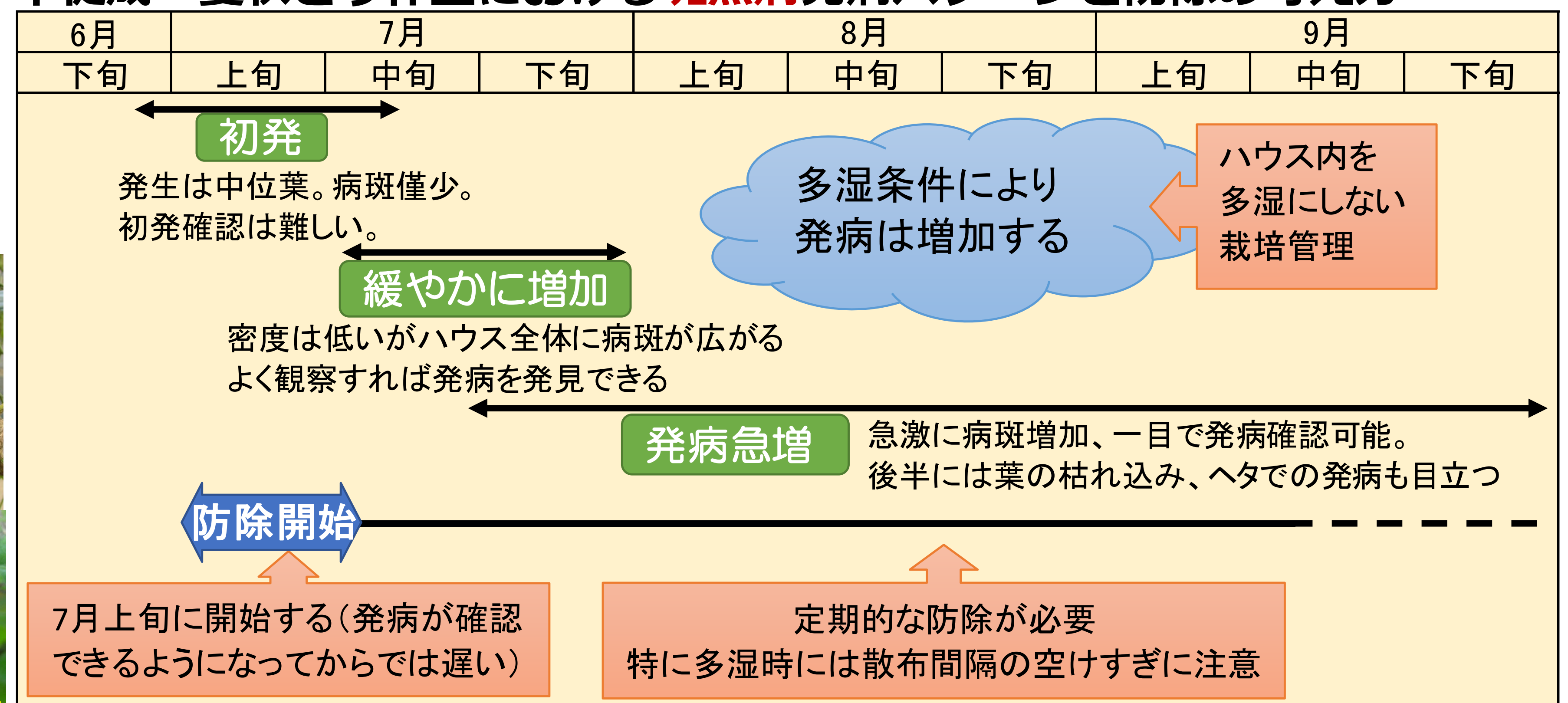


多発による早期枯葉

葉の斑点症状

ヘタ発病 → 果実ロス

半促成～夏秋どり作型における斑点病発病パターンと防除の考え方



品種による発病差が大きい！

「キャロル10」「ラブリー藍」 → 発生多 防除が必要！

「SC6-008」「キャロル7」「キャロルスター」「キャロルパッション」「アイコ」「CF千果」 → 発生少 防除不要

斑点病の防除に活用できる薬剤

供試薬剤	防除価	防除効果	果実の汚れ
TPN水和剤F 1000倍	50 60 70 80 90 100	高い	土
イプロジオン水和剤 1000倍	50 60 70 80 90 100	ある	土
ピリベンカルブ水和剤DF 2000倍	50 60 70 80 90 100	ある	—
ミノクタジオンアルビシ酸塩水和剤F 4000倍	50 60 70 80 90 100	やや低い	—
ベンチレート水和剤F 2000倍	50 60 70 80 90 100	やや低い	—

葉かび病

葉かび病抵抗性遺伝子Cf-9を持つ品種にも発病するレースが広く分布

抵抗性品種（キャロル10、SC6-008などのCf-9を持つ品種）も、ハウス内をよく観察し、発生があれば防除が必要

葉かび病に対する薬剤の防除効果

供試薬剤	防除価	防除効果	果実の汚れ
TPN水和剤F 1000倍	50 60 70 80 90 100	高い	土
ピリベンカルブ水和剤DF 2000倍	50 60 70 80 90 100	高い	—
マンゼブ水和剤F 1000倍	50 60 70 80 90 100	ある	—
ミノクタジオンアルビシ酸塩水和剤F 4000倍	50 60 70 80 90 100	ある	—
(対照) ボスカリド水和剤DF 1000倍	50 60 70 80 90 100	ある	—

すすかび病

葉の症状は葉かび病との区別がつかない。

胞子の形は全く違う



すすかび病

感染は
育苗時～定植直後
から起こる！

特に、
定植時期の早いハウスで
発生が早く、多い

すすかび病が多発したことがあるハウスでは、**予防散布**を行う。

ピラクロストロビン・ボスカリド水和剤DF
TPN水和剤Fなどは効果あり

普及 Dissemination

- ミニトマト栽培における病害防除対策として活用する
- TPN水和剤F、イプロジオン水和剤は程度は軽いが果実に汚れが生じる場合がある

連絡先 Contact

花・野菜技術センター研究部
生産環境グループ
0125-28-2800
hanayasai-agri@hro.or.jp